

部局名	安全環境部	所属名	クリーン推進課	所属長名	林 昭雄	電 話	483-1151 内線3220
-----	-------	-----	---------	------	------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3230		事務事業名称	リサイクル推進事業					短縮コード	経常	3230	臨時	3231
予算区分	会計	01	一般会計	款	04	衛生費	項	02	清掃費	目	02	塵芥処理費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律 八千代市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
ごみ焼却による環境汚染問題、限りある埋立処分場の不足からごみの減量化が必要となり、また、平成9年から特にごみのうち内容量で約60%を占める容器包装類の資源化リサイクルを目的とした法施行により、分別収集を段階的に開始した。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系		5本の柱（章）	03	安全・環境共生都市をめざして					
ごみの循環型社会作りに向けて、それぞれ個別にリサイクル法が整備され、益々事務事業が増大する傾向にある。						大項目（節）	03	環境・衛生					
						中 項 目	02	ごみ処理					
						小項目（施策）	01	ごみの減量化・リサイクルの推進					
						細 項 目	02	ごみの減量の推進					
03	分別収集の徹底												
				実施計画の計画事業	3303	リサイクルプラザ整備事業							
計画事業の位置付けの有無			☐	計画事業期間		平成18年4月 ～ 平成19年3月		計画事業費		千円			

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	①市民 ②資源物 ③ごみ量							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成18年度に実際に行ったこと： 資源回収事務、ゴミゼロ運動の実施、八千代フリーマーケットの開催支援、リサイクルフェア開催、廃棄物減量等推進員の委嘱等、集団回収事務、生ごみたい肥化容器等購入費補助金交付事務、ごみ収集量の統計、分別収集実績の県報告、広報紙でのごみ分別等PR、廃棄物行政の概要作成、資源化施設管理、ペットボトル減容化施設管理、空き缶抜き取り対策、家電リサイクル法への対応、パソコンリサイクルへの対応							
	※平成19年度に計画していること： 平成18年度と同事業							
意図 （何を狙っているのか）	ごみの発生抑制及びリサイクルを推進する。							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	1人当たりのごみ排出量の減量化及びリサイクル率の上昇により、環境汚染の軽減や埋立処分場の延命、ごみの循環型社会への転換を図る。							
区 分				単位	17年度	18年度		19年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	ごみ排出量	kg/年	63,882,812	61,780,000	63,651,733	62,068,000	
	指標2	資源物量	kg/年	12,575,221	12,878,000	12,741,143	13,137,000	
	指標3	集団回収量	kg/年	3,180,676	3,327,000	3,163,546	3,398,000	
活動指標	指標1	1人当たりごみ排出量	g/日	946.2	910	934.3	895	
	指標2	資源物のリサイクル率	%	19.7	22.2	20	22.6	
	指標3	集団回収団体数	団体	74	73	76	74	
成果指標	指標1	1人当たりごみ排出量の減少率	%	-1.3	4	1.3	4.4	
	指標2	資源物のリサイクル率の上昇率	%	-10.9	12.7	1.5	13	
	指標3	集団回収量	t/年	3,181	3,327	3,164	3,398	
上位成果指標	指標1	市民一人一日当たりのごみの排出量	g			934		
	指標2	リサイクル率	%			23.8		
	指標3	一般廃棄物処理量（年）	t			63,652		

コード	3230	事務事業名称	リサイクル推進事業				所属名	クリーン推進課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			ごみの発生抑制・リサイクル推進のために、各種事業の拡大を行っていく必要があり、その中で単純事務などについて臨時的任用職員等を活用する事で、より効率的、合理的に業務の遂行が可能となる。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☒ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止								
☐ 休止								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			成果向上のための事業拡大により、経費は増加する。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
ごみの排出抑制、リサイクルに対する啓発、空き缶抜き取り対策、情報発信基地としてのリサイクルセンター建設の要望などがある。									

所属長コメント	ごみの発生抑制・リサイクル推進には、多くの経費がかかる事業もあるため、有効性・効率性のある事業から実施を図っていく。								
評価調整委員会意見	☒ 改革改善して継続			課題解決が可能であれば経費の増加を検証し推進すべき					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☒ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☐ 現状のまま継続									